

それでも、やっぱり鯛が好き？！

高部英明

夏休み、皆様いかがすごされましたか？

今日は、休み中に読んだ本で気に入った一節を紹介して、スピーチの替わりとします。数学者の小平邦彦著「僕は算数しかできなかった」という本に「学問の進歩のパターン」についての記述がありました。以下、「数学」という言葉を適当に置き換えて読んでみて下さい。

進歩の典型は生物の進化であるから、数学の進歩のパターンも生物の進化のパターンと同じではないか。動物の進化は、古いものが徐々に進化して高等動物になったのではない。3 - 4億年前の昔、魚が進化して両性類になった。しかし、当時の最も進化した魚が更に進化して両性類になったのではなく、幼稚(primitive)な形態のものが進化して両性類になった。4億年前も昔のことであるから、実際にどうなっていたかはもちろんわからないが、ちょっと想像をたくましくしてみると、当時すでに立派な魚で、海の表面に近い見通しのよい透明な水域を颯爽^{さつそう}として泳いでいたのがいた。そういう魚の子孫は今でも魚、たとえば鯛であろう。一方、当時魚としては幼稚な形態で海底の泥の中をがむしゃらにはい回っていたのがいた。そういうものの子孫がいつの間にか陸上に這いあがって両性類になった。そして、幼稚な形態の両性類が進化して人間になった。

我々が数学を研究する場合も同様に専門分野を一つ定めてその最先端の見通しのよい所で仕事をしていると、鮮やかな結果は出てくるけれども、珍しい変わったことはあまり出てこない。泥沼にもぐって何も見えない所を暗中模索で這い回っていると、思いもかけない珍しい結果が出てくる。新しい分野はこういうふうにして生まれるのではないか。

以上のような話を小平氏がされた後、ある人から「鯛でどこが悪い、腐っても鯛と言うでしょう」としかられたそうである。貴方はいかがですか。腐っても・・・の方ですか。それとも……………。